

「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」

マルコ2:18-22

平吹光太 23.3.26

本日の箇所の前は、取税人のレビ（マタイ）が招かれ、イエス様と罪人達と食卓を囲んだことが記されている。本日はその後の出来事を見ていきたい。

I. ヨハネの弟子とパリサイ人の断食についての考え方

「さて、ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは、断食をしていた。そこで、人々はイエスのもとに来て言った。『ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食をしているのに、なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか。』（18節）

ここでは、断食（食事をしないこと）に関してのことが言われている。断食について三つのグループが登場します。①ヨハネの弟子たち ②パリサイ人たち ③主イエスの弟子たち

ヨハネの弟子たちは、師であるバプテスマのヨハネが悔い改めとメシヤ待望を人々に説いていたように、神が与えた律法を守り行うことができない自分たちの罪を神の前に悔い改め、完全に罪から救ってくださるメシヤを待望していた。そのため、彼らは自らの罪を深く悲しむとともに、メシヤの到来を待ち望む表現として断食を行っていた。

パリサイ人たちは、神の律法と自分たちで決めた規則を守ることはとても忠実な者たちであったが、律法を守り行うことによって、自分たちが神の前に正しい者と認められるという誤った考えを教えていた。つまり自分たちの頑張りや努力で救われると教えていた。神様は、人間が律法を完全に守れないことを分かっておられたため、律法とともに罪を償うためのいけにえの制度を定められた。本来、神様がイスラエルに律法をお与えになった目的は、神の前に喜ばれるきよい生き方の基準を示すため。また、罪を示し、悔い改め、人間の罪を完全に赦すいけにえであるメシヤを待ち望むこと。しかし、パリサイ人たちは、本来、律法が意図する目的をはき違えていた。彼らは悔い改めとメシヤ待望ではなく、自分たちの頑張りや努力で神の前に正しい者と認められると信じていた。それ故、パリサイ人たちの断食は悔い改めとメシヤ待望ではなく、自分たちの敬虔さを誇る偽善的な行為となってしまっていた。彼らは週に二日断食をし、自分たちの敬虔さを誇った。

一方、イエス様の弟子たちは、ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは定期的に断食をしているのに対して断食をしていなかった。そればかりか、取税人や罪人たちと共に食卓を囲み、飲み食いして楽しんでた。それを見ていた人々は理解に苦しみ、イエス様の元に来て「なぜあなたの弟子たちは断食をしないのですか？」と尋ねた。それに対してイエス様はたとえで答えられる。

II. イエス様の弟子たちの新しい生き方

「イエスは彼らに言われた。『花婿に付き添う友人たちは、花婿と一緒にいる間、断食できるでしょうか。花婿と一緒にいる間は、断食できないのです。』（19節）

イエス様は結婚式のたとえを話された。この当時の結婚式には花婿に付きそふ友人たちがいた。彼らは花婿の様々なお世話をする役割があった。結婚を祝う祝宴は一日だけではなく、1～2週間あった。そのような喜ばしくめでたい時に、断食の日が来たから断食をしましょうとはならず、祝宴の間は断食する習慣から解放され、友人たちは喜び祝うことができた。このたとえの花婿はイエス様を指し、花婿に付きそふ友人たちはイエスの弟子たちを指している。つまり、イエス様は「救い主であるわたしが来たのだから、悲しみとメシヤ待望の断食をすることはふさわしくない」と言わ

れた。本日の前の箇所のイエス様と取税人や罪人たちが共に祝宴をしている場面は、救い主イエス様がこの世に来てくださったことにより、神の御国の喜びがすでに始まっていることを示された。すなわちイエス様の福音には悔い改めと共に喜びと自由がある。そして続けてイエス様は言われます。

「しかし、彼らから花婿が取り去られる日が来ます。その日には断食をします。」(20 節)

この意味は、イエス様ご自身が敵の手に渡されて十字架にかかる際には、弟子たちは悲しみで断食をするだろうということ。イエス様はこの後、十字架にかけられて死なれます。それは神の前に滅びるはずであった罪人である私たちを赦すための身代わりの死。それだけではなく、三日目に死人のうちからよみがえられました。それは、私たち全人類の全ての罪の呪いをその身に受けられたということです。それ故、私たちは神様の前に正直に罪を告白し、イエス様を私の救い主と信じ受け入れるのなら、神様は私たちの罪を赦し、滅びから新しいいのちに生きる者としてくださる。さらに神様は私たちの心にご聖霊を与え、本来私たち人間の目的である神様を愛し、隣人を愛する生き方に戻してくださいます。今までは、神を憎み、人を赦せず、何もかも神や人のせいにし、生きている意味や目的も分からずにさまよっていた私たちでした。しかし、主の愛と恵みによって与えられた罪の赦し、神との回復、平和によって、神様を愛し隣人を愛するようにならされた。素晴らしい主を崇め、感謝。

III. 新しいぶどう酒は新しい皮袋に

「だれも、真新しい布切れで古い衣に継ぎを当てたりはしません。そんなことをすれば、継ぎ切れが衣を、新しいものが古いものを引き裂き、破れはもっとひどくなります。まただれも、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れたりはしません。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を裂き、ぶどう酒も皮袋もだめになります。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるものです。』(21~22 節)

次にイエス様は、ぶどう酒を入れる皮袋のたとえを話された。当時のイスラエルでは、ぶどう酒を保管するために動物の皮袋を使っていた。皮袋は新しいものは柔らかく伸縮性が良い。けれども、古くなると次第に硬くなり伸縮性が悪くなる。そのため、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れると、新しいぶどう酒は発酵しガスが出て、伸縮性のない硬い皮袋の中では皮袋を引き裂いてしまい、ぶどう酒も皮袋もだめになる。そのため、新しいぶどう酒の良い保管方法は伸縮性のある新しい皮袋に入れることが大切。つまり、イエス様はかつての旧約時代(繰り返しいけにえをささげていたが、完全なる罪の赦しときよめを得られなかった)の生き方ではなく、新約時代(全くきよい御子イエス様がいけにえとなられたことによって罪赦され、きよめを受け、喜び、平安の中を生きるようにされた)のキリストの弟子、その福音の救いにあずかった者としてふさわしく生きるようにということをご言われました。さらにイエス様が天の御父のもとに行かれた後に御父と御子のご聖霊をこの世に遣わされました。その聖霊が主を信じる私たちを新しくし続けてくださいます。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(II コリント 5:17)。このみことばは、ご聖霊が、新しくされる恵みと御霊の実を生み出してくださる次の聖句にも繋がっています。

「御霊の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものに反対する律法はありません。」(ガラテヤ 5:22-23)。今私たちは神に愛される子として、ご聖霊によって喜び、愛をもって神と隣人を愛し、仕える者とされています。次のみことばは新しい新約の生き方を述べている。「他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない』という戒め、またほ

かのどんな戒めであっても、それらは、『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』ということばに要約されるからです。愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。」(ローマ 13:8-10)

イエス様は私たちが主の恵みに感謝せず、愛もなく、表面的に行うことで人に良く見せようとする律法主義的な生き方ではなく、主によって与えられている愛によって、みことばに生き、互いに愛し合って生きるように願っておられる。本来、律法は神を愛するために与えられているのですから、主の十字架と復活の真の救いの恵みを受け入れない律法主義的な生き方ではなく、まず、私たちが愛し救われ新しい恵みで変え続けておられる神を、私たちも愛するために何が出来るかをお互いに考え、愛し合っていくことを願い祈り求めていきましょう。愛に生きることは主が成してくださった福音の新しい生き方です。